

平成26年度 岡山県農林水産総合センター「水産研究所」 機関評価評価票

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 0人	優れている 4人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 平成26年3月に作成した研究推進基本構想に基づき3つの重点分野の研究開発を推進するという運営方針は、漁業者のみならず、消費者である県民全体の利益に関わるものとなっている。一方、漁業を漁業者の生業として成り立たせていくための積極的なマーケティングやブランディングの方策を具体化する必要がある。					
2 組織体制及び人員配置並びに 予算配分	非常に優れている 0人	優れている 2人	妥当 3人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 財政が厳しい中、限定された人員で、外部資金の獲得に努めて多くの課題に取り組んでいるが、外部資金の比率が82%というのは異常であり、県独自の取組が遂行できるか懸念される。					
3 施設・設備等	非常に優れている 0人	優れている 2人	妥当 4人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 新たな研究に対応しうる機器類が充実しているので、外部資金の獲得にも生かして欲しい。種苗生産棟等の旧施設は老朽化が激しく、その機能を十分果たしていないと思える。施設の整備や運営方針の再構築が必要である。					
4 研究成果	非常に優れている 1人	優れている 4人	妥当 1人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 特許やわが国で初めて成功した研究事例等優れた成果もあるが、停滞あるいはマンネリ化した分野も見受けられる。単に記録を残すだけではなく、5年、10年間隔で過去のデータと比較・解析し、報告すべきである。					
5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、 依頼試験、情報提供等の実施状況	非常に優れている 0人	優れている 4人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 県民、漁業者、行政などを対象とした公開型の研究発表会を開催していることも水環境や漁業の状況が水産研究所の研究をもとに広く理解される機会となっている。多くの人々に「水産」を体験する機会を提供してほしい。					
6 人材育成	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 研修は人材育成に欠かせないものであり、近年増加傾向にあることは望ましい。また、同時に発表機会を与える（強制的にも）ことも育成につながる。部門間の共同作業の可能性も考慮し、ゼネラリストの視点もあってよい。					

7 他機関との連携	非常に優れている 0人	優れている 3人	妥当 3人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 多くの機関との連携は業務の効率化・高度化に欠かせず、人材育成の観点からも重要である。水産研究所が共同研究の中でイニシアチブをとれるようにして欲しい。					
8 県民・地域への貢献	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 研究成果発表会開催をはじめ、小学校への出前授業や地域のサークル活動の研修活動は県民に水産研究所をアピールできる良い機会である。水産研究所のホームページから県民等の意見を収集する手立ても工夫してはどうか。					
9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 全般に対処されているが、社会情勢の変化についていけるように大胆な変革も必要である。					

総合評価	非常に優れている 0人	優れている 4人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
助言、指摘事項等 本県の水産規模から考えると、人員・予算は比較的恵まれている。限られた予算をいかに効率よく活用していくか、引き続ききめ細かく、また柔軟に対応しながら、地域の漁業を成り立たせ、発展させるなど県民の食のニーズの一端としての漁業のあり方を追求する研究を進めて欲しい。					